

6月23日（火）三雲養護学校 石部分教室を訪問しました！

対談テーマ

就労を見据えた特別支援教育について

三雲養護学校石部分教室では食品加工・農・窯業等の作業学習に取り組んでいます。養護学校での学習活動を通して、働く意欲を高め、生活習慣を身につけ自立する力をどう養っていくのか、学校の実態を通して意見交換を行いました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員

野村 早苗 委員

塚本 晃弘 委員

校内見学



この日の三雲養護学校石部分教室は7月7日に予定されている「いしぶんマーケット」に向けて、校内マーケットが開催されていました。教育委員も参加し、それぞれのブースで生徒からどんなものを製作しているか、どんな思いで販売しているのかなどの説明を聞きました。

意見交換より

委員：生徒たちのいきいきとした表情がとても印象的でした。生徒の主体性や達成感を得られるようにするために心がけていることを教えてください。

学校：生徒一人ひとりのやる気を引き出すことです。例えば石部分教室では週2～3回ランニングに取り組んでいます。はじめは嫌がる生徒もいるのですが、続けることで記録が伸び、自分が努力したことの成果を自分で感じることで、次の意欲につながるということを大切にしています。

委員：学校の中で生徒の働く力、意欲を育てておられることがよく分かりました。就労先については、どのタイミングで決めておられるのか、また生徒が望む卒業後の進路とうまくマッチングできているのでしょうか。

学校：進路については、まず希望をとっています。生徒自身の希望と適性や条件のマッチングは難しいこともありますので、教員のアドバイスを聞きながら自己決定、自己選択をしていきます。どのような就労を望んでいるのかについて生徒本人、保護者と何度も相談を重ねて、めざす場所を考えていくようにしています。たくさん選択肢から選び取るのはとても難しいため、選択肢をいくつかまとめて提示し、生徒本人が気づけるように支援しています。

委員：生徒と先生の関係がとても良いと感じました。学校として今後どんなことに取り組みたい、やっていきたいと考えていますか。

学校：石部分教室は高等学校に併設されており、高校の施設設備を活用させていただいています。今後も環境整備に努め、豊かにものづくりができるようにしてあげたいと思います。また、現在、定員の半分の在籍となっています。少人数の学校の良さもありますが、もっと石部分教室の良さをアピールしていきたいと思っています。

委員：高校とのつながりについて教えてください。

学校：高校の学校行事に参加したり、福祉コースの生徒と授業交流をすることがあります。教員間では特別支援学校のセンター的機能を発揮し、高等学校における特別支援教育について相談を受けることもあります。